

自己評価及び外部評価票

[セル内の改行は、(Alt+ ) + (Enter+ )です。]

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	開所13年となり事業所の存在は地域に根差したものになってきていると思う。新しい職員が配属になり、事業所が地域と共存していることの意味を理解し毎年立案している事業所目標の達成に向けて職員全員で取り組むよう努めている。	新しい職員を含めて組織の理念について実践指導し、事業所の目標は毎年作っている。又個人目標も全員が作り年度末に面談評価を行い理念共有に力を入れている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	屋外で行われた行事には、コロナの感染状況を踏まえて参加出来た。(焼き芋大会)	医療生協栗田支部の運営委員を中心に地域の協力を得ながらいろいろなイベントが開催されている。コロナ禍で以前よりできないことが多いが、地域とのつながりは以前に比べてだいぶ密接になってきた。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	コロナの状況に合わせて、支部運営委員会に参加し、事業所の運営の報告をすると共に地域住民の認知症に関する情報を受けて助言したり認知症の支援方法を伝える機会があった。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、その意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議の内容は、経営の事や行事の報告、事故報告等事業所の運営が分かるよう報告している。行政からの返信が殆どではあるが、家族からも時々反応があり、意見要望の機会になっている。	コロナ感染で会議が難しいので、2か月に1回は文書で状況をお知らせしているが、なかなか返事はもらえていない。ただ家族委員からは時々意見要望の返事があり改革の一助となっている。	施設自体の懸案である家族会は利用者とその家族との関係を深めることになるのでコロナ感染予防に心がけながらチャレンジされることを期待します。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協係を築くよう取り組んでいる。	運営推進会議の開催はコロナ感染の影響で書面開催となっているが、市町村の担当から内容について問い合わせがあったり、新規入所者の紹介を受ける事もあった。	コロナ感染のため文書で連絡をすることが多いが以前よりも返信は少ない。フレッシュ情報でのお知らせを参考に運営しているが、たまに新規入所希望の間の照会があったりする。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	毎月、身体拘束適正化委員会を開催し拘束を行っている利用者について慎重に検討している。利用者の安全の確保以外には拘束は行っていない。	毎月医療生協の身体拘束適正化委員会が開催されいろいろな事例について検討を行っている。マニュアルはあるのでスタッフ会議で確認している。現在転倒の危険があるため1人がセンサーマットを使っている	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	学習会では虐待について知識を深め、職員間で日頃のケアの中で虐待が無いかわ互いに意識合っている。		

グループホーム栗田ゆうゆう

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見人制度を利用している利用者があり認知症利用者に必要な支援を学ぶ機会や情報を得る機会がある。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入所時の契約については、利用者家族に十分に説明を行い理解した上で署名頂いている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	法人独自のアンケートを行っている。(満足度調査)結果をフィードバックし、不足の部分については職員会議で論議し改善につなげている。	法人独自の利用者満足度調査を毎年行っている。日々の暮らしの中で利用者、親族に聞いたり、スタッフ会議でも聞いて、情報ノート、業務日誌、タブレット申し送りに記録を残すシステムになっている。この3つについては必ず見ることにしている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員会議、カンファレンスでは職員が自由に意見を述べる場があり、管理者にも随時意見や提案がある。個人面談の場も設けている。	職員会議、カンファレンスなどで職員には経営上の数字も知らせて意見を聞いている。経営状況も職員みんなで共有して、改善に向けた協力につなげている。	勤務時間(夜勤)の長さについて、要望もありましたので検討いただけるといいかと思います。
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	定期昇給があり、年休の取得、労働環境の整備に努めている。メンタル復帰者や病休明けの職員の受け入れや労働条件はそれぞれの職員に沿った配慮も行っている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	外部の研修についての参加は難しい状況ではあったが、研修アプリを使って学習する機会を持つようになっている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	法人内の介護事業所職員との交流の場に参加したり、他事業所に支援として勤務する機会もある。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	日頃のケアの中で、利用者の思いや困りごとなどを表出して貰うことに努め、出来るだけ解決に結びつけることで良好な関係作りに努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	今期は三名の利用者が新規に入所することになったが、それぞれの家族にはそれぞれの要望や困難な事項があることを理解し、家族をひとくりにせず対応していくことに努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	利用者も家族も生活が大きく変化するので、不安の無いよう丁寧に情報収集を行い、必要なサービスを広い視野で取り入れて行くよう努めている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	人生の先輩である利用者に学ぶことも多い。考え方、料理、昔からの習慣など、支援する者とされる者の関係だけでは無いことに気づかされる。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	コロナ禍の中で家族との交流が出来ず、家族も利用者も寂しく不安な状況であったが、利用者の状況を随時報告連絡することで、絆を持ち続けて貰えるよう努めている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	コロナ禍で馴染みの場所も馴染みの人との交流も動画や画像、リモートなどで関係が途切れないように支援している。	現在はコロナ禍のため外に連れて行ってあげることも、その外出支援もできていない。どうしてもお寿司を食べたい方の対応は個室のとれる店を厳選して感染防止に努めている。唯一リモートで家族と面会のできる対応をしている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	認知症のある利用者同士の横の繋がりは、難しい時もあるが、職員が橋渡しとなり会話をつなげたりしている。レクリエーションを通して利用者同士が関わる場もある。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退所した利用者家族が時々訪ねて来て下さる。(野菜を持って)事業所からもお便りをだしたり、メールで近況を伝えたりしている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	認知症の方の思いを表出し、その思いが実現することは現実的には難しいことの方が多いが、本人の思いを少しでも引き出しケアの中で実現できるようにスタッフ会議やカンファレンスで検討し職員全員で取り組んでいくように努めている。	認知症の方の思いを言葉から聞くのは難しいと感じている。入所時の聞き取りや、日ごとのカンファレンス、スタッフから積極的に聞くなどして少しでも思いに近づこうとしている努力が感じられる。親族などには週1回か10日に1回は様子をお知らせしたりして情報を得ている。(スマホのLINE使用)	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	今までの暮らしぶりが事業所ですっかり変化することが無いよう、以前利用していた担当者から情報収集を行い現実の状態をすり合わせて行くようにしている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々の生活の中での様子は生活記録に記録し、特に解決したい事項や問題などがある場合はパターンシートを使い、分析し問題解決に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	スタッフ会議、カンファレンスで検討する前に利用者本人、家族から意見要望を聞いておき、訪問看護、往診、訪問リハ、薬剤師訪問等でも助言を貰っている。コロナの状況で一堂に会すという状況が難しいため、家族とは電話連絡が多くなっている。	利用者に関わっている様々なスタッフから情報もらい、介護計画につなげている。コロナ禍で家族、親族と面会するのは難しいのでLINEを活用して情報提供をお願いしている。6か月ごとにスタッフ会議等でアセスメント、モニタリングを行い、利用者家族に介護計画の確認を頂いている。特に変更がない場合は概ね1年を目途に確認を頂いている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	タブレット入力となった為、重要な送りや気づきや工夫、利用者の動向などを一目で見れるようになった。職員間で共有することもスムーズになり、記録内容はケア計画に反映させる視点で行うように努めている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	コロナの影響で家族の支援が貰えない期間も多かった。しかし出来るだけ関わりを持って貰いながら事業所が出来る支援に取り組んでいる。		

グループホーム栗田ゆうゆう

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	ゆうゆうで生まれた(実家)利用者夫妻の入所があり、地域資源との協働と言う意味で大きく発揮出来ているのではと思う。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	今期は認知症の進んだ利用者が家族の希望で認知症専門医を受診する為の支援に努めた。(日頃の様子観察の記録物、動画や報告など)	協力医療機関の医師が月1回往診に来てくれている。専門医の受診についてはグループホームで支援して家族に受診はお願いしている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	いつもと違う状態の気づきを大切に、スタッフ皆で共有すること、自己の判断に頼り過ぎず、訪問看護ステーションとの連携に努めている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	今期も入院した利用者があり、コロナの流行で利用者との面会が出来なかったが病院スタッフとの情報交換で退院支援はスムーズに行えた。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化の指針は入所時に家族に説明署名して貰い理解を仰いでいる。今期は二名の看取りがあった。それぞれの家族の状況や意向に合わせた最期の時間であった。	重度化した時の指針は入所時に家族から同意書をもっている。ゆうゆうでは今まで13人の看取り経験がある。食事の代わりに点滴はできないと話してある。看取りに入った利用者さんについてはコロナ下であっても面会可能である。又最終段階では医師、看護師、担当、家族と話して決める。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	学習会を行い急変や事故発生時に備え、マニュアルも事務所に掲示している。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	コロナの流行で今期は近隣の方に参加して貰う避難誘導訓練が出来なかったが、職員と利用者で避難の確認を行った。日頃から、近隣住民とのコミュニケーションには努めている。	コロナ禍により本来実施したい訓練は出来ていないが、春1回実施した。近隣との共同訓練はできていない、近所の人たちは少しずつ理解してくれていざという時に協力してくれる体制はできている。水害時は垂直移動、関連の施設に運ぶ段取りになっている。災害食は3日分備蓄している。	近隣との関係も充実してきているので訓練は定期的実施していただくのがいいと思います。

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	言葉かけは、人生の先輩である利用者に対し職員同士がお互いに意識し合ってプライバシーや人格を尊重するよう努めている。	基本的にその人の人生を考えて言葉かけをしている。従って常に敬語で話すということではなく利用者の気持ちを押し量って話すようにしている。心ある繋がりを大切にしている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	利用者との会話の時間を確保し、ケアの中からも利用者の感じていることの引き出しが出来るよう努めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一日の大まかな日課はあるも、利用者の状態や希望に沿って過ごして貰っている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	更衣介助時は本人の希望を聞きながら衣類の準備を行っている。毎日メイクをしている利用者もいる。理容師の来所でヘアカラーをしている利用者もいる。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事の希望を聞いて可能な限り献立にとりいれ、利用者の好みや苦手な物についても配慮している。	特にメニューはなく職員全員が調理にあっている。コープながのに発注、野菜類は買い出しに行っている。昼食のメニューはバランス、塩分、味、見た目ともによくできていた。職員間の連携が取れていて調理技術も高い。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	栄養バランスを考慮した献立に努め、利用者個々の摂取量、水分量の把握は記録管理し、体重の考慮しながら必要に応じて捕食なども行っている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	歯磨きの出来ない利用者は毎食後、介助にて歯磨き、義歯の洗浄を行い口腔内の清潔に努めている。		

グループホーム栗田ゆうゆう

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	排泄のパターンを観察記録し適切な時間とタイミングで促しを行い出来るだけ失敗が無くトイレでの排泄が出来るよう行っている。	排泄記録はタブレット又はペーパーに記録されている。要介護5の方が2名でおむつを使用しているが、リハパン、パット交換できない人を手伝い、中には布パンツに変わった人もあり、小さい声でトイレ誘導している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排便のパターンを観察記録し、スムーズに排便が行えるよう食事や運動を進めながら、適切な処置も行っている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	利用者の体調や入浴に対する気持ちに配慮し、曜日や時間帯は決めていない。また、清潔は保ちつつ入浴に気持ちが向かない利用者は無理強いせずタイミングを図りながら誘うようにしている。	週に2、3回は入浴してもらうようになっているが、騒ぐ人もいたり、入浴拒否の人もあり、利用者の意向を尊重しながら、特に時間帯を決めず誘導している。リフト浴の設備もある。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	就寝時間は個々に合わせ、スムーズに就寝できるよう、居室の温度や照明、就寝前の飲み物、衣類にも配慮している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	処方後は薬剤師が訪問して利用者の状態を確認しながら内服指導をして貰っている。職員は内服後の様子観察、変化の有無の確認に努めている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	毎日の洗濯量は皆で協力して行っている。晩酌を行う利用者やパターの練習を居室で行っている利用者もいる。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している。	コロナの流行で以前のように外出が出来ないが外の空気を吸いに庭や近隣へ散歩に出掛けることはある。	コロナの影響で日常的な外出は出来ていない。ただ陽気のいい日にたまたま庭や駐車場周辺の散歩をすることはある。	

グループホーム栗田ゆうゆう

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭の管理には十分に留意し、本人が所持する時は家族の了解を得て所持して頂くようにしている。利用者の希望に応えられるよう、金庫に預かることもある。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望がある時は家族への電話を支援したり、知人から来た便りに返信出来るよう支援したりしている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共用の空間は照明や換気に配慮し、季節の植物を飾る等して居心地よく過ごせるようにしている。	換気をこまめにして感染予防に努めている。共有の食堂兼リビングには花を飾るなど温かい雰囲気を作っている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングのソファは利用者同士で過ごすこともでき、時には一人で過ごせる離れた場所に一人掛けのソファも設置している。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	馴染みの家具を自宅から持ち込んで貰い、戸惑い無く今まで通り使えるようにしている。	ベッドと車いす以外はすべて自宅からの持ち込みで思い思いの居室が作られている。自宅での生活の延長につながるよう好きな物をもってきていただく事に協力している。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	古民家を改修し趣がある面、ハード面では新しく来られた利用者のレベルに応じて工夫していかなければならない部分もあり、出来るだけ個々の利用者の状態に沿った環境作りに努めている。		